

□■ 04 呼びかけ ■□

～ 詩の中の好きなフレーズを誰かとかぶらずに読めたら大成功 ～

「番号！」というシンプルなゲームがあります。たとえば1から15の番号を、誰が何番と決めずに番号を声に出してかぞえていき、2人が同時にかぞえたらアウトというゲーム。これを格調高く詩で行います。短いフレーズで書かれた詩を用意し、好きなフレーズを1人1回読んで、かぶらずに最後までいったら成功です。



シンブソン

*対象…小学校中学年～
 *人数…10～20人程度
 *時間…20分程度
 #アイスブレイキング#朗読
 #タイミング

用意するもの

- 短いフレーズで構成された詩

進め方

- (1) 詩のコピーを全員に配り、いちど各自で朗読します。
- (2) 進め方やルールを説明します。
 「この詩を最初のフレーズから声を出して読んでいきます。
 1人が読むことができるのは1つのフレーズだけで、どのフレーズを読んでもかまいません。
 もし同時に2人以上の人が読んでしまったら、もう1回ははじめからやり直します。読む順番を相談したり、目で合図を送ったりすることはできません。」
- (3) 人数分以上のフレーズで構成されている詩の場合は、人数分で切るか、1人2回まで読んでもいいことにするなど、工夫をする。
- (4) 使いやすい詩としては、谷川俊太郎の「生きる」、吉野弘「生命は」、茨城のり子「自分の感受性くらい」などがあります。

バリエーション

必ずしも現代詩でなくても、たとえば子どもたちが好きなミュージシャンの歌詞や、合唱祭の課題曲などでも、使えるものがあると思います。

キャンプのはじめに、子どもたちに目標を短いフレーズで考えてもらい、それをランダムに並べたものを用意して、自分で書いたもの以外のフレーズを読む、というバリエーションもあります。

あるいは、高校生以上の若者や大人のグループだったら、小学校の卒業式でやった「呼びかけ」を使ったらいかがでしょう。たとえば、こんな感じで。

春

春

桜のつぼみも膨らみ

希望に満ちた

春

このよき日

たくさんの思い出を胸に

私たちはいま

新しい世界に

旅立とうとしています

校長先生からいただいた

卒業証書

かけがえのない

6年間の

成長の証

そしてふりかえれば

いつも一緒に笑い

励ましあってきた

仲間たち

6年間の思い出を胸に

私たちは

卒業します

人数によって、行を増やしたり減らしたり

もちろん、がまんできずに誰かが笑い出したら、はじめからやり直し

チャレンジレベルを上げたい場合は、太字の部分は全員で発声する